

2017年3月期 第3四半期 決算概要

テルモ株式会社

常務執行役員 IR・広報室担当

北畠 一明

2017年2月9日

為替の影響を除き、売上・営業利益ともに増加

(億円)

	15年度 Q3累計	16年度 Q3累計	増減率	為替除く 増減率
売上高	3,960	3,744	-5%	+4%
粗利益	2,146 (54.2%)	2,053 (54.8%)	-4%	+6%
一般管理費	1,272 (32.1%)	1,219 (32.6%)	-4%	+5%
研究開発費	233 (5.9%)	245 (6.5%)	+5%	+13%
営業利益	641 (16.2%)	589 (15.7%)	-8%	+4%
(のれん等償却除く)	794 (20.1%)	731 (19.5%)	-8%	+4%
経常利益	610 (15.4%)	522 (13.9%)	-14%	
純利益	435 (11.0%)	318 (8.5%)	-27%	

期中平均レート	USD	122円	107円
	EUR	134円	118円

- 売上高 : 為替を除き、心臓血管の海外が二桁伸長を継続し全体を牽引
- 営業利益 : 心臓血管を中心に高収益品の拡大、品質システム改善コスト減で粗利率改善
- 経常利益 : 為替差損37億円へ縮小
- 純利益 : 仏ART社・共同開発解消に伴う特損計上

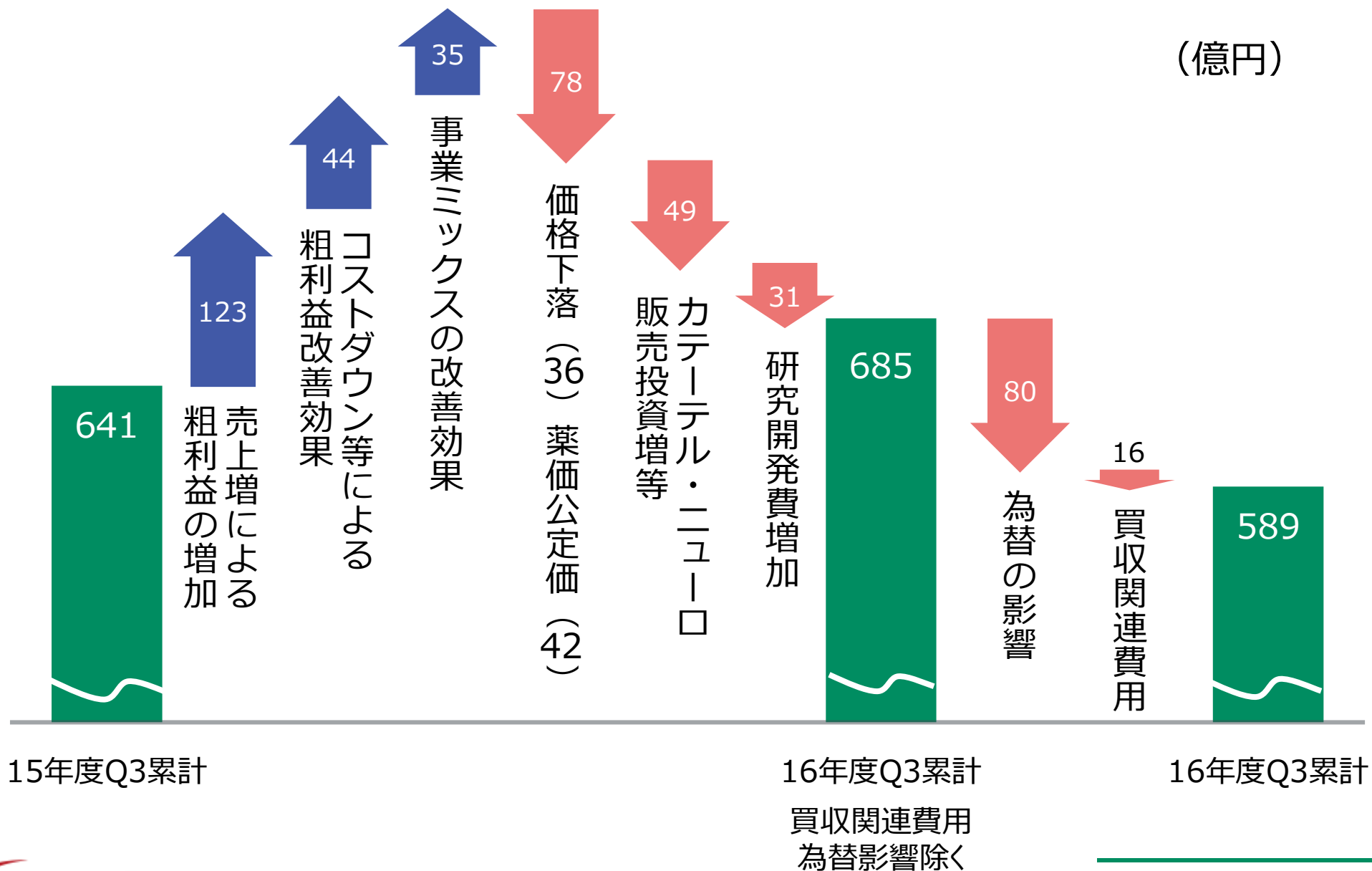
営業外・特損益・法人税

(億円)

	15年度 Q3累計	16年度 Q3累計	
営業利益	641	589	増減率 -8%
営業外損益	-31	-67	為替 Q2累計 Q3 累計 15年度 -24 0 -24 16年度 -66 +29 -37
経常利益	610	522	増減率 -14%
特別損益	+43	-76	15年度 幡ヶ谷土地売却 +44 16年度 ART社共同開発解消 -70
税前利益	653	446	増減率 -32%
法人税等合計	-218 33%	-128 29%	過去評価減したオリンパス株式の 税効果
純利益	435	318	増減率 -27%

営業利益増減分析

(億円)

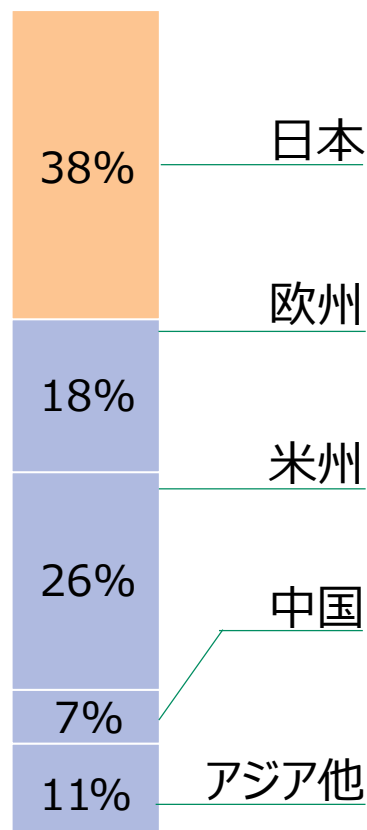


地域別売上高

16年度Q3累計
15年度Q3累計

売上高

100% = 3,744億円



売上額前年比較

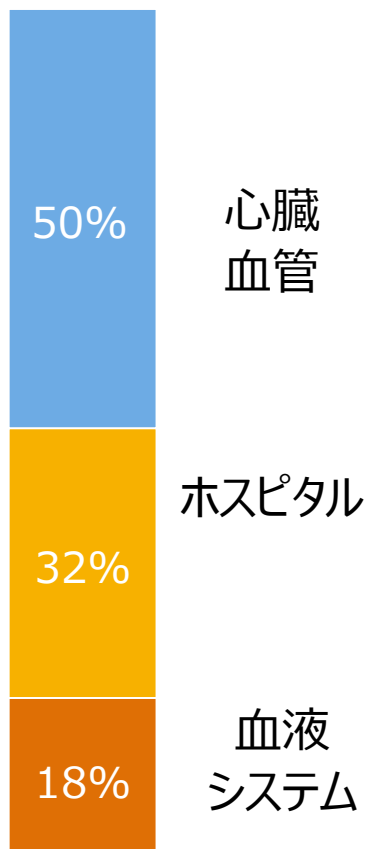
金額(億円)	増減率	コメント
() 内は為替影響除く		
日本 1396 1404	-1%	ニューロや輸液ラインが好調維持。薬価公定価改定、コロナリー治療・新製品の売上一巡
欧州 683 764	-11% (3%)	心臓血管は好調維持(+7%)。ホスピタルはグローバルD&D(B2B)継続拡大、基盤医療器の低収益事業縮小
米州 989 1087	-9% (5%)	心臓血管全般で好調を維持(+10%) 血液は新価格適用の影響
中国 253 260	-2% (17%)	カテーテルに加え、ニューロ、CV、血管、全ての心臓血管事業が二桁伸長し牽引
アジア他 422 444	-5% (9%)	ホスピタルは留置針等が好調維持。心臓血管はカテーテルが牽引し、二桁伸長を継続

カンパニー別売上高

■ 16年度Q3累計
■ 15年度Q3累計

売上高

100% = 3,744億円



売上額前年比較

金額(億円)	増減率	コメント
	() 内は為替影響除く	
16年度Q3累計: 1866 15年度Q3累計: 1932	-3% (8%)	海外カテーテルに加え、ニューロがグローバルで二桁伸長し全体を牽引
16年度Q3累計: 1190 15年度Q3累計: 1228	-3% (0%)	欧州・中南米は低収益事業縮小を継続。中国含むアジアは二桁伸長。日本は輸液ラインの好調が、造影剤販売終了を相殺
16年度Q3累計: 687 15年度Q3累計: 800	-14% (-2%)	米国血液センター向け製品の新価格の影響はQ3で一巡。中東・ロシアにおけるマクロ経済のマイナス影響

心臓血管：堅調な実ビジネス。買収関連費用等の影響を受ける

(億円)

	15年度 Q3累計	16年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
売上高	1932	1866	-3% (8%)	為替のマイナス影響	- 230
				日本：公定価改定の影響、及び前年同期にローンチしたコロナリー治療デバイス新製品の売上増が一巡。ニューロは二桁成長を継続	- 4
				海外：カテーテル及びニューロが二桁伸長 CVや血管も好調維持	+167
事業利益(率)	478	475	-1% (20%)	高収益なアクセスデバイスやコロナリー治療デバイスが牽引	
	(25%)	(25%)		ミサゴのリコール及びSequent Medical買収の影響	- 25

() 内は為替影響除く

ホスピタル: 収益性の改善基調を維持

(億円)

	15年度 Q3累計	16年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
売上高	1228	1190	-3% (0%)	為替のマイナス影響	- 38
				海外：欧州・中南米は低収益事業縮小	- 10
				中国・アジアで留置針等が牽引	+15
				日本：輸液ラインなどが伸長	+9
				薬価改定、造影剤代理販売終了	- 17
事業利益 (率)	182 (15%)	178 (15%)	-3% (-2%)	在庫評価差や、金利低下による年金コスト増の影響を跳ね返し、事業利益率は改善基調 Q1:14% ⇒ Q2累計:14% ⇒ Q3累計:15%	

() 内は為替影響除く

血液システム：収益性が着実に改善傾向

(億円)

	15年度 Q3累計	16年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
売上高	800	687	-14% (-2%)	() 内は為替影響除く	
				為替のマイナス影響	- 97
				米・血液センター向け製品の新価格適用	- 26
				中東・ロシアのマクロ経済の影響	- 5
				欧州・中南米中心にアフレスリス治療が伸長	+ 10
事業利益 (率)	143 (18%)	103 (15%)	-28% (-21%)	事業利益率は改善基調 Q1:12% ⇒ Q2累計:14% ⇒ Q3累計:15%	

Q3 主なトピックス

全社

- 被災地支援が評価され、弾性ストッキングが「健康医療アワード2016」を受賞（10月）



- 国際会計基準（IFRS）の適用を発表（11月）



- 5カ年の中長期成長戦略を発表（12月）

事業

- アームイン血圧計をリニューアル発売
データ通信機能付き追加（10月）



- St. Jude社・Abbott社の止血デバイス事業等買収を発表（12月）

16年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域	ローンチ
心臓	DES (Ultimaster)	◎ ★	仏	済み
	DES (Ultimaster) 4.0mm品種追加	◎ ★	日	済み
イメージング	IVUS	◎ ★	日	Q4 予定
ペリ フェラル	PTAバルーン (膝下, RX/OTW)		日・米・欧	日米:済み
	PTAバルーン (膝上・下両用,RX/OTW)		日・米・欧	日米:済み
	PTAバルーン (膝上, RX/OTW)		日・米・欧	済み
脳	プロテクションデバイス		欧	FY17 予定
オンコ ロジー	放射線塞栓ビーズ (Quirem)	★	欧	FY17 予定

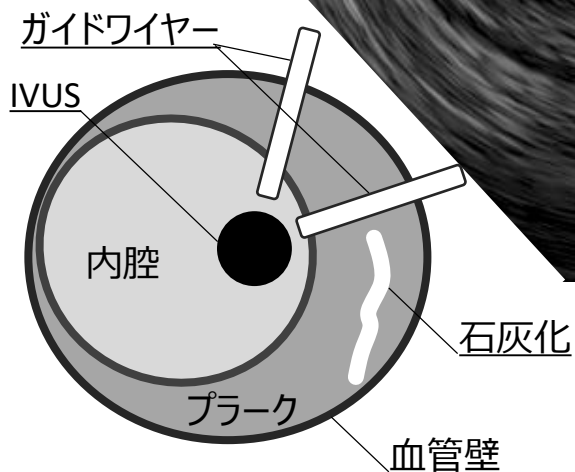
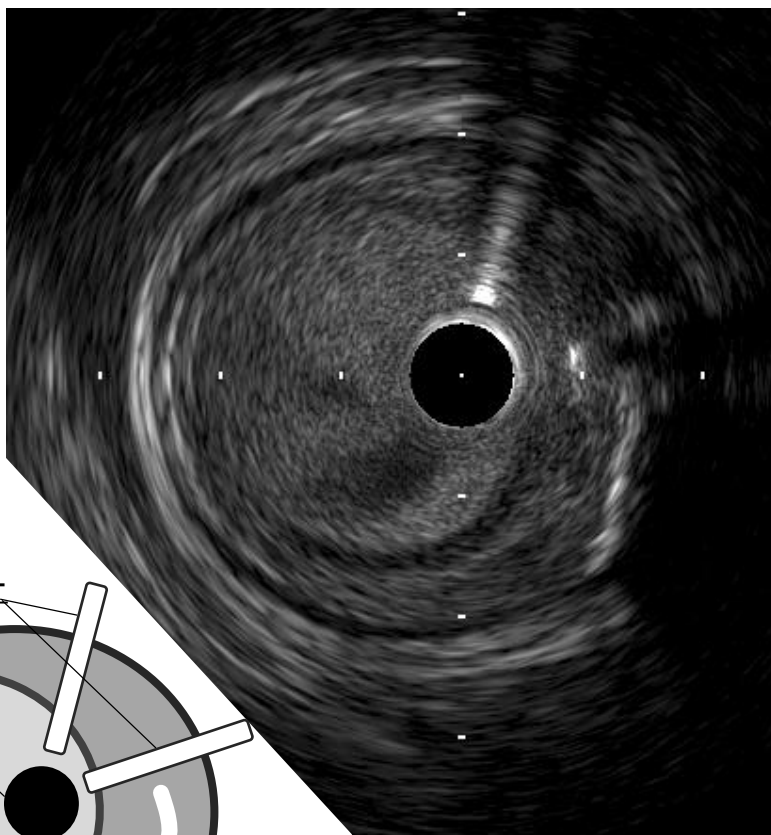
◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

領域	製品		地域	ローンチ
CV	遠心ポンプ装置		亜	済み
再生	ハートシート	★	日	済み
D&D	皮内投与デバイス	★	日	FY17 予定
	癒着防止材	★	日	Q4 予定
DM	血糖計 (フィットスマイル)		中	FY17 予定
血液	自動製剤化システム	★	日	済み



新IVUSシステム：国内トップシェアを狙う

- 病変部がクリアに見える **高分解能画像**



- コンソールを刷新：**小型化・軽量化**

従来品



135
kg

VISICUBE



34
kg

- 画像取得・処理の **高速化**

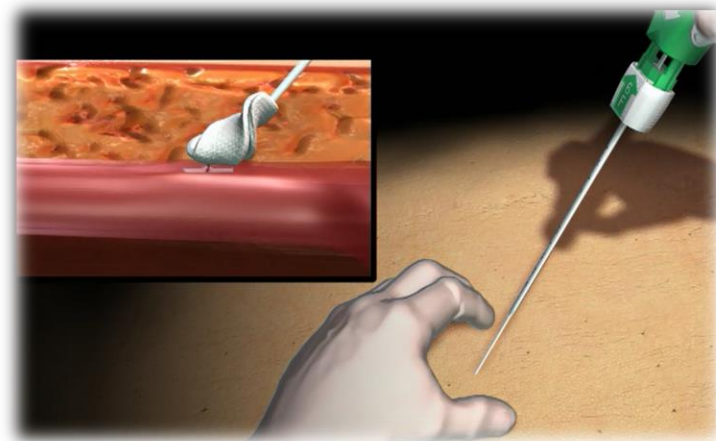


AltaView™

従来品の最大
18倍
のスピード

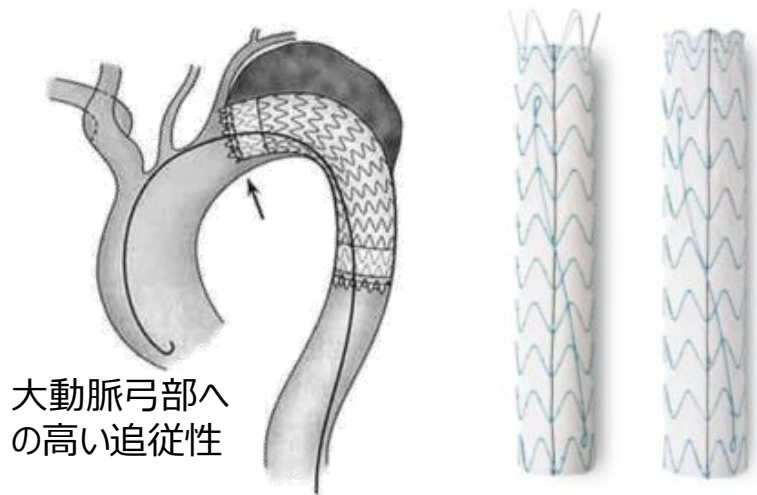
Abbott社・St.Jude社からの止血デバイス事業買収完了

- 2017年1月20日に買収手続き完了
- 買収金額：11.2億米ドル
 - EBITDA倍率8倍
- アクセスNo.1ポジションを盤石化
- 安定的な収益貢献期待
 - 年間売上規模 250百万米ドル超
 - 一時要因・のれん償却等除く営業利益率 30~40%
 - 16年度・17年度初めは、一時要因の影響あり



米Bolton社の買収：血管事業ポートフォリオの拡充

■ 胸部(TAA)ステントグラフトの獲得




- 胸部ステントグラフト市場への参入
- 米国ステントグラフト市場へのアクセス獲得
- 16年度*売上45Mユーロ
- 今春に買収完了予定


*Bolton社 会計年度1-12月期実績

■ 外科とインターベンションの間にある 隣接領域を強化

外科 [人工血管 ]

ハイブリット 

隣接領域

腹部(AAA)ステントグラフト 

胸部ステントグラフト 

生体吸収性ステント：ART社との共同開発から自社開発へ

■ ART社との共同開発契約を解消



- 技術ハードルは想定以上に高い
- 生体吸収性ステント(BRS)が主流となるには時間がかかる

■ 潜在的価値は無視しえない。BRSへのコミット継続



市場動向を見極めつつ、次世代金属DES、自社開発BRSへ注力

株式持合いの解消、及び自己株式取得500億円

■ オリンパス社との業務提携継続

- 両社の取引拡大（内視鏡向けガイドワイヤー等）
- 株式持合いなくとも業務提携を深められると両社確認

■ オリンパス社株式の売却

- 16年度Q4中に全株売却予定、特別利益を計上する見込み

■ 500億円（上限）の自己株式取得

業績予想の修正

- 売上：止血デバイス事業買収時期のズレ及び実勢を反映
- 前回修正以降に発生した買収案件関連コスト分につき修正
- 純利益は変更なし
 - マイナス ART社との共同開発契約の解消
買収案件関連コスト
 - プラス オリンパス社株式の売却益

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
従来予想	5,170	750	650	475
今回修正予想	5,100	710	620	475
修正額	-70	-40	-30	-

想定為替レート

	従来	見直し	従来	見直し
Q4	USD : 105円	→ 110円	通期	105円 → 107円
	EUR : 115円	→ 120円		116円 → 118円

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	373 (-1%)	1492(+11%)	460 (+7%)	643 (+10%)	204 (+19%)	186 (+16%)	1866 (+8%)
うちカテーテル※	285 (-2%)	1198(+12%)	376 (+8%)	477 (+11%)	192 (+18%)	154 (+20%)	1483(+10%)
ホスピタル	935 (-1%)	255 (+3%)	56 (-11%)	56 (-0%)	15 (+21%)	127 (+9%)	1190 (+0%)
血液システム	86(+2%)	601 (-2%)	167 (-1%)	290 (-4%)	35 (+4%)	109 (-3%)	687 (-2%)
合計	1396 (-1%)	2348 (+6%)	683 (+3%)	989 (+5%)	253 (+17%)	422 (+9%)	3744 (+4%)

※ニューロバスキュラー事業含む

() 内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	15年度 Q3累計	16年度 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	575	552	-23	- 4%	+6%
販促費	126	112	-14	- 11%	- 2%
物流費	83	84	+1	+1%	+5%
償却費	210	191	-19	- 9%	+2%
その他	278	280	+2	+0%	+9%
一般管理費計	1,272 (32.1%)	1,219 (32.6%)	-53	- 4%	+5%
研究開発費	233 (5.9%)	245 (6.5%)	+12	+5%	+13%
販管費合計	1,505 (38.0%)	1,464 (39.1%)	-41	- 3%	+6%

四半期の動き

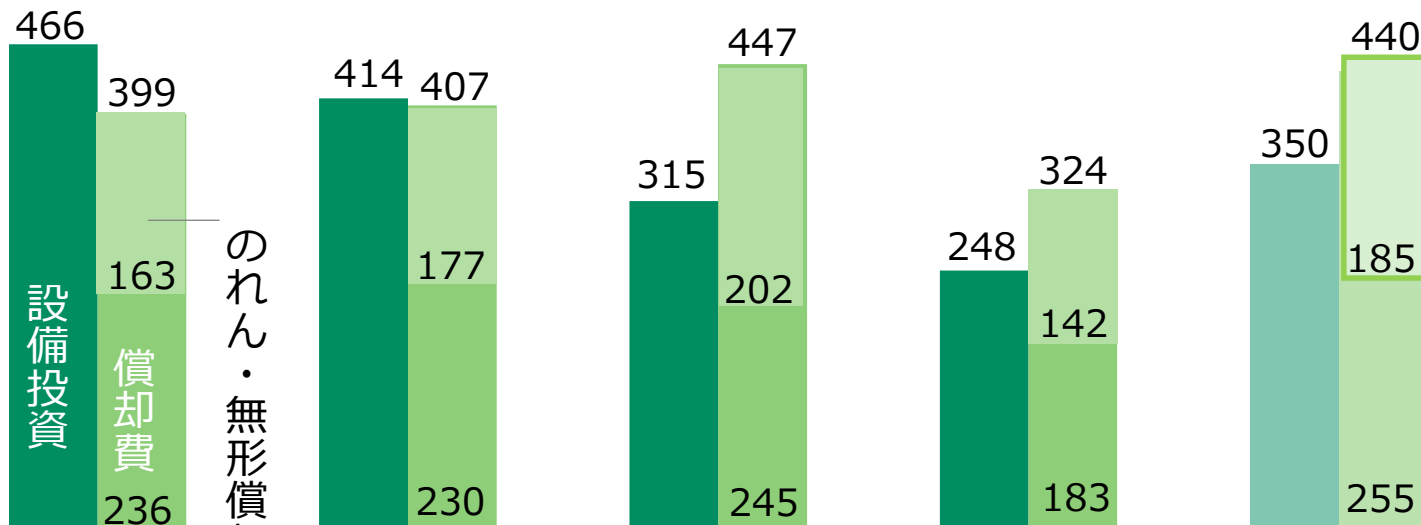
(億円)

	15年度Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	16年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上高	1,368	1,290	1,245	1,206	1,293
粗利益	753 (55.0%)	703 (54.4%)	698 (56.0%)	663 (55.0%)	692 (53.6%)
販管費	429 (31.3%)	428 (33.1%)	403 (32.3%)	401 (33.3%)	415 (32.1%)
開発費	74 (5.4%)	99 (7.7%)	81 (6.5%)	82 (6.8%)	82 (6.4%)
営業利益	250 (18.3%)	176 (13.6%)	214 (17.2%)	180 (14.9%)	195 (15.1%)
のれん等償却 除く営業利益	301 (22.0%)	225 (17.4%)	259 (20.8%)	226 (18.8%)	245 (19.0%)

四半期	USD	121円	115円	108円	102円	109円
平均レート	EUR	133円	127円	122円	114円	118円

設備投資と研究開発費

(億円)



のれん・無形償却費

- 設備投資はFY13でピークアウト
- 設備投資は償却費の水準に落ち着く方向へ

設備投資は建設仮勘定計上ベース

- 主に北米にてカテーテル・ニューロの開発活動を促進

13年度

14年度

15年度

16年度Q3累計

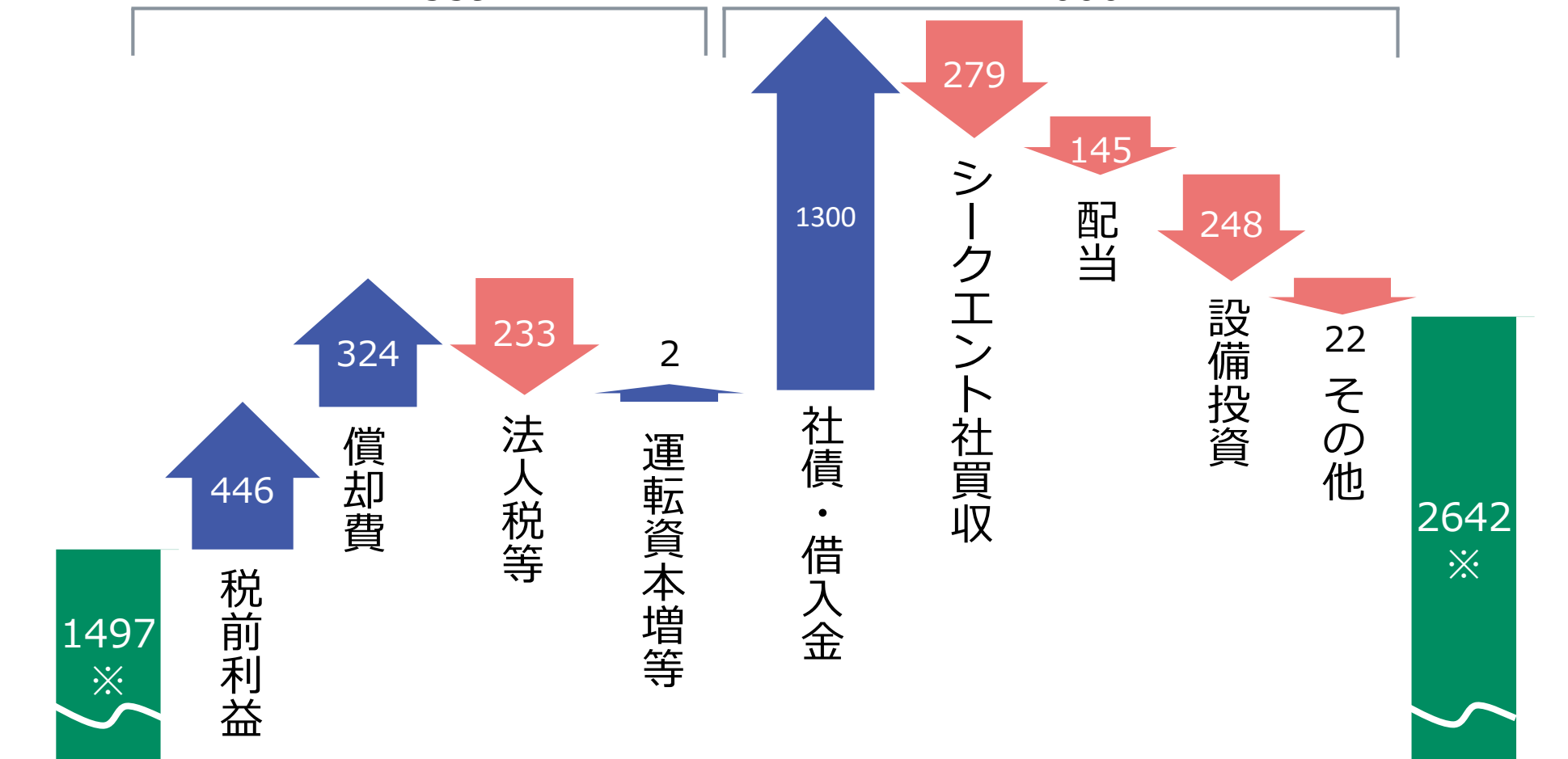
16年度予想

キャッシュフロー

営業キャッシュフロー
+539

投資・財務キャッシュフロー
+606

(億円)



16年3月度末
現預金残高

※期末現預金残高はB/S内「現金及び預金」と整合

16年12月度末
現預金残高

為替感応度

(億円)

	USD		EUR
	のれん等償却 除く	のれん等償却 含む	
売上高	14	14	5
営業利益	0	-2	3

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。